

道

2024年3月1日
(第108号)

備中国分寺 五重塔



跳び箱が怖かった。水泳で頭から飛び込むことができなかつた。小心で意気地なしだった。そんな憶病な少年が、中学二年で、ある宗教団体に入る決断をする。澆刺とした人達に接して目の前がぱっと明るくなつた気がしたのだ。その信仰を深めるなか、この世界こそ「絶対」で、これに帰依していこうと誓つた。▼ところが、時が過ぎるなかで気持ちに弛みが生じ、意志の弱さもあつて朝夕のお勤めを怠るようになる。そんな時に社会の問題を考える研究会との縁ができて、徐々にその活動に入り込んでいった。そして、信じる宗教との矛盾に悩むようになる。信心の迷いが強くなつていき、ついに高校二年の時、「地獄に墮ちるぞ」の声を振り切つてその宗教から脱する。▼その後、高校後半から大学時代、ある「左翼」思想とその運動の中に傾斜していった。額に汗して働く者が幸せになる世の中をつくる。この思想こそ「絶対」で、何があつてもこの考えを持ち続けるのだと思つた。▼だが、「絶対」など存在しなかつた。「絶対」と見なした時点から、道が逸れていったのではないか。▼例えば「ケア」で考えてみると、絶対正しいケアなどない。結果的に、心地よかつたり元気になつたり笑みがこぼれたりするのがケアだ。大事なものは、相手を(自分をも)、受け入れること、否定しないで「対話」すること。▼「跳び箱、怖いよなあ、でも大丈夫」と、子どもの心を分かうとするような人が傍らにいたら、少し違う人生だったかもしれない。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

電話：090-5366-1497

メール：michi-care@outlook.jp

ホームページ：https://michi-care.jimdo.com/

〈道〉LINE：https://lin.ee/zCG7Iyp



林道也



ジョウビタキ

メジロ